

梅雨空の下、太鼓と踊りの熱気に酔う



泉伝統芸能保存会による第5回泉伝統芸能まつりが7月17日、國造神社を主会場に開かれ、約200人の老若男女が梅雨空の下、藩政時代から伝わる勇壮な虫送り太鼓の響きと哀歓を帯びた泉じょんがら踊りに楽しい一時を過ごしました。虫送り太鼓行列は「五穀豊穡稲虫送り」などの小旗を立てた大太鼓（3尺7寸）やカンテラ松明で隊列を組み、約100人の親子が神社を起終点に泉・三馬両校下の約3kmを練り歩き、沿道の住民を喜ばせました。また、境内では毎月1回踊りの練習を重ねてきた住民らが先頭に立ち夜の更けるまで踊りの輪を楽しみました。まつりは回を重ねるごとに泉、三馬校下の町会、世代間の枠を超えて地



域の絆を強めており、今年2月には旧北国街道いずみ界限を考える会が発足し、旧北国街道南口から有松交差点までの街道一帯と周辺の歴史文化の継承やホテルの住む環境整備を推進する町おこし協働事業が具体的に動き始めました。この街道に人が溢れ、じょんがら踊りの輪が流れ、桶胴太鼓が響き渡り、さらには豪華絢爛な獅子舞の復活が実現すれば、高い文化度を誇った町の通りの姿もきっと変わってくると思われます。この街に生まれ、住んで良かったと思えるような街づくりを皆さんも一緒に考えて見ませんか。